

### 【旧約聖書日課】創世記 6章11～22節

<sup>11</sup>この地は神の前に墮落し、不法に満ちていた。<sup>12</sup>神は地を御覧になった。見よ、それは墮落し、すべて肉なる者はこの地で墮落の道を歩んでいた。<sup>13</sup>神はノアに言われた。

「すべて肉なるものを終わらせる時がわたしの前に来ている。彼らのゆえに不法が地に満ちている。見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす。

<sup>14</sup>あなたはゴフェルの木の箱舟を造りなさい。箱舟には小部屋を幾つも造り、内側にも外側にもタールを塗りなさい。

<sup>15</sup>次のようにしてそれを造りなさい。箱舟の長さを三百アンマ、幅を五十アンマ、高さを三十アンマにし、<sup>16</sup>箱舟に明かり取りを造り、上から一アンマにして、それを仕上げなさい。箱舟の側面には戸口を造りなさい。また、一階と二階と三階を造りなさい。

<sup>17</sup>見よ、わたしは地上に洪水をもたらし、命の靈をもつ、すべて肉なるものを天の下から滅ぼす。地上のすべてのものは息絶える。

<sup>18</sup>わたしはあなたと契約を立てる。あなたは妻子や嫁たちと共に箱舟に入りなさい。<sup>19</sup>また、すべて命あるもの、すべて肉なるものから、二つずつ箱舟に連れて入り、あなたと共に生き延びるようにしなさい。それらは、雄と雌でなければならない。<sup>20</sup>それぞれの鳥、それぞれの家畜、それぞれの地を這うものが、二つずつあなたのところへ来て、生き延びるようにしなさい。<sup>21</sup>更に、食べられる物はすべてあなたのところに集め、あなたと彼らの食糧としなさい。」

<sup>22</sup>ノアは、すべて神が命じられたとおりに果たした。

### 【使徒書日課】ヨハネの手紙一 4章1～6節

<sup>1</sup>愛する者たち、どの靈も信じるのではなく、神から出た靈がどうかを確かめなさい。偽預言者が大勢世に出て来ているからです。<sup>2</sup>イエス・キリストが肉となって来られたということを公に言い表す靈は、すべて神から出たものです。このことによって、あなたがたは神の靈が分かります。<sup>3</sup>イエスのことを公に言い表さない靈はすべて、神から出ていません。これは、反キリストの靈です。かねてあなたがたは、その靈がやって来ると聞いていましたが、今や既に世に来ています。<sup>4</sup>子たちよ、あなたがたは神に属しており、偽預言者たちに打ち勝ちました。なぜなら、あなたがたの内におられる方は、世にいる者よりも強いからです。<sup>5</sup>偽預言者たちは世に属しており、そのため、世のことを話し、世は彼らに耳を傾けます。<sup>6</sup>わたしたちは神に属する者です。神を知る人は、わたしたちに耳を傾けますが、神に属していない者は、わたしたちに耳を傾けません。これによって、真理の靈と人を惑わす靈とを見分けることができます。

## 【福音書日課】ルカによる福音書 11章14～26節

14イエスは悪霊を追い出しておられたが、それは口を利けなくする悪霊であった。悪霊が出て行くと、口の利けない人がものを言い始めたので、群衆は驚嘆した。15しかし、中には、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と言う者や、16イエスを試そうとして、天からのしるしを求める者がいた。17しかし、イエスは彼らの心を見抜いて言われた。「内輪で争えば、どんな国でも荒れ果て、家は重なり合って倒れてしまう。18あなたたちは、わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うけれども、サタンが内輪もめすれば、どうしてその国は成り立って行くだろうか。19わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちの仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。20しかし、わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。21強い人が武装して自分の屋敷を守っているときには、その持ち物は安全である。22しかし、もっと強い者が襲って来てこの人に勝つと、頼みの武具をすべて奪い取り、分捕り品を分配する。23わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしと一緒に集めない者は散らしている。」

24「汚れた霊は、人から出て行くと、砂漠をうろつき、休む場所を探すが、見つからない。それで、『出て来たわが家に戻ろう』と言う。25そして、戻ってみると、家は掃除をして、整えられていた。26そこで、出かけて行き、自分よりも悪いほかの七つの霊を連れて来て、中に入り込んで、住み着く。そうすると、その人の後の状態は前よりも悪くなる。」

### 悪霊を追い出して！【こども説教のために】

「福音書」は、教えや病気治癒と並んで、悪霊追放が主イエスのお働きの中心にあったことを伝えています。十二人の弟子たちが遣わされたときも、主イエスは、「あらゆる悪霊に打ち勝ち、病気をいやす力と権能をお授け」（ルカ 9:1）になられました。弟子たちの教会は、この主イエスに命じられた働きを受け継いで、特に「受難節」の期節には、「悪霊祓いの祈り」を共にすることを大切にしてきたのです。

主イエスが追い出されていた「悪霊」は、口を利けなくする悪霊だったと言われています。悪霊に取りつかれると、口が利けなくなるのです。そして、代わりに、悪霊が饒舌に語り始めるのです（ルカ 4:33～35、4:41 等）。わたしたちに自分自身の心にある思いを語らせなくさせ、何か別のことを語らせるようになるのが、「悪霊」なのかもしれません。

主イエスは、そのような「悪霊」を追い出してくださったのです。わたしたちの中からもそのような「悪霊」が追い出されるようにと、弟子たちを通して教会に「悪霊祓いの祈り」を託してくださったのです。

「悪霊」が追い出される時、わたしたちは、本当に自分の語るべき言葉を言い始めるようになるでしょう。そう願って、わたしたちは祈るのです。

## 口を利けなくされる

つい先日、ある新興宗教団体の指導者が急逝したとの報道がありました。その指導者は、神仏や死者と霊的に交流し、それらに成り代わって「霊言」を語ることができるということで信者を集め、教えてきたのです。その中には、イエス・キリストの「霊言」として語られたこともあるようですが、残念ながら、わたしは読んだことがありません。

この団体が発足した当時のことを、わたしはよく覚えています。高校生の頃でしたが、当時住んでいた町で、この団体の活動が始められたからです。同じ町で同じ頃、後に大事件を起こして世間を震撼させた別の宗教団体も、活動を始めていました。世の中はオカルトブームで、今世間を騒がせている宗教団体の靈感商法が問題にされていました。霊的な話、神秘的な話、超自然的な話を、多くの方は娯楽として楽しんでいたのでしょうけれども、中には真剣に受けとめる者もいたのです。

教会で「悪霊」や「悪魔」のことを話題にすると、まるで胡散臭いオカルト話を聞かされているように思われる方もあるかもしれません。テレビ番組で取り上げられる娯楽話であればともかく、教会はそのような前近代的な迷信話をいつまでもし続ける必要はない、と考える者も確かにいるのです。けれども、わたしは、「福音書」が伝える主イエスの「悪霊追放」の逸話を読めば読むほど、これは、オカルト話でも迷信でもない、もっと人間存在の根本を問う出来事なのだと、受けとめないではいられません。

**「イエスは悪霊を追い出しておられたが、それは口を利けなくする悪霊であった。悪霊が出て行くと、口の利けない人がものを言い始めた」。**

このように伝えられる出来事を、オカルト的に理解するならば、あの主イエスを批判した人々のような言い方になるのでしょうか。「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と。「悪霊の霊力によって口を利けなくさせられている者から、もっと強い霊力で悪霊を追い出して、口を利けなくさせる霊力を解いてやっているのだ」というのです。

ところが、主イエスはおっしゃられるのです、「**神の指で悪霊を追い出している**」と。

「**神の指**」とは、不思議な表現です。それこそ、悪霊にも対抗できる霊力を意味しているのではないかと思われる方もあるでしょう。この表現は「聖書」の中で滅多に出てこないのです。それでも、「旧約」をよくご存じの方であれば、思い出しただけなのでしょう。あのモーセがエジプトから民を導き出した後、シナイ山で神から「律法」を授かったとき与えられた「石の掬の板」は、「**神の指で記された**」（出 31:18、申 9:10）ものであったと伝えられているのです。

## 「頼みの武具」は？

「石の板」に「**神の指で記され**」ていたのは、「**十の戒め**」（出 34:28）、いわゆる「十戒」であったと言われます。要は神の「**すべての言葉**」（出 20:1）のことです。「神の指」は、文字という手段を通して「神の言葉」が人に与えられることを意味しています。ルカ福音書は、主イエスがそのことをご存じの上で、おっしゃられたというのです、「**神の指で悪霊を追い出している**」と。

問題は、「言葉」なのです。わたしたちが口にする「言葉」なのです。「悪霊」は、わたしたちが本来語るべき「言葉」を覆い隠してしまう何か、なのです。「悪霊」は饒舌に語る何か、なのです。わたしたちが語るべき言葉を覆い隠して、代わりに多くの言葉で語り出す何か、なのです。

その「悪霊」は、わたしたちの外からやって来ます。何かわたしたちに語らせようとする「言葉」を携え持って、外からやって来ます。

わたしたちは、自分の「言葉」は自分自身のものだと思っているところがあるでしょう。けれども、「言葉」はすべて与えられたものです。親から与えられ、先達から、周囲から、書物から、テレビや新聞やインターネットから与えられて、わたしたちの中に「言葉」があふれているのです。その「言葉」を選び取って、わたしたちは、自分の「言葉」であるかのように口にするのです。それどころか、そのように口にする「言葉」が、まるで自分自身の心からものであるかのように思い込んで、語り始めるのです。

それは、しかし、あなたが本当に語るべき言葉なのかと、主イエスは問われているのではないのでしょうか。人が本当に語るべき言葉、その人自身が生かされ、周囲の者も生かされ、この世界が生かされるようになる言葉を、あなたは本当に口にしているのか。そう問われているのではないのでしょうか。

わたしの執務室には、本棚から溢れるほどの本が積み上げられています。多くの書物は、わたしにとって誘惑です。それは、わたしにとって若いときから「**頼みの武具**」でした。しかし、その「頼みの武具」を、強力な悪霊は奪い取り、いつのまにか虜にしてしまうと、主イエスは言われます。「あなたは、そのときどうするのか」と。

メソジスト教会の最初の指導者、ジョン・ウェスレーは「一書の人」と呼ばれました。「聖書」をひたすら読み、そこからすべてを語ったのです。そこからだけ、「神の言葉」を聞き取ると心に決めたからです。他のいかなるものからも「神の言葉」を引き出そうとはしないと誓ったからです。

わたしたちも、せめて週に一度、主の日の教会で、この「一書」に戻していただくのです。主イエスが多くの「悪霊」を追い出すために用いられた「神の指」は、今日も差し出されています。その「神の指」の働きを信じて、ただ一書の中から、わたしたちの語るべき「言葉」は、回復されるのです。